

1 日 時 令和6年1月29日(月) 午後1時30分から午後3時30分まで

2 場 所 伊豆田方分校 パソコン室 (田方農業高校北館2階)

3 参加者

学校運営協議会委員

氏 名	所 属 等
河野 真人	社会福祉法人 伊豆の国市社会福祉協議会 会長
鈴木 志津子	相談支援事業所 サニープレイスかなみ 相談支援員
岩田 聡志	就労継続支援B型事業所 志～cocoro～ 管理者
海野 貴	株式会社 うみのワークス 代表
室伏 麗香	沼津特別支援学校 伊豆田方分校 PTA 会長

令和6年度研修会講師

氏 名	所 属 等
内山 智尋	静岡大学 地域創造学環

学校教職員

氏 名	役 職 等
青木 暁乃	校 長
長谷川 裕己	教 頭
佐藤 貴志	部主事
佐藤 保寿	副主事 教務課長

4 内 容

①校長挨拶

【校 長】・学校運営協議会としては発足して丸2年となる。委員の方々は、学校評議委員会時代から本校のことをよく理解してくださり、よき応援団となっている。
・生徒たちが、卒業後もつながりを持ちながら地域生活を安心して送るための研修会を、令和6年度の夏に計画している。委員の方々からの意見や情報提供をお願いしたい。

②今年度の取組の報告と反省

※別紙「令和5年度 学校経営報告書(自己評価)」参照

[安 全] ○地域での安全につながる防災教育

○誰もが安心して通える学校

・今年度も防災教育に力を入れてきた。職員研修や総合的な探究の時間で理解を深めた。防災訓練では実際的な経験を積み上げた。今年度はジュニア防災士養成講座で外部講師を活用した。

- ・誰もが安心して通える学校を目指し、養護教諭やスクールカウンセラーによる相談、スクールサポーター（警察 OB）による巡回や情報共有など、校内外の人材を活用した。
- ・学校の中には教育課程に馴染めず不安を抱く生徒がいた。学校では可能な限りの環境整備や支援方法の最適化を図っている。同時に、地域と連携して、地域の中での居場所や将来的に安心して過ごせる場所を模索した。教育の役割と真の自立とは何かを考えていきたい。
- ・校内環境の整備という面では、限られた空間を有効に活用する工夫や情報データの整理をしてきたが、まだ改善の余地がある。学習活動の質の維持・向上や、教職員の業務改善につながるように発展させたい。

[専門] ○多面的な生徒理解と生徒自身の自己理解への支援

○個に応じた適切な進路決定

- ・教職員研修を通して「生徒自身が課題を発見していく」「生徒自身が主体的に解決に向かって行動する」について学び、着実に効果が表れてきている。
- ・コロナ禍が明け、交流や行事などの実施について回数を欲張ってしまった。生徒が慌ただしく取り組み、主体性を欠いてしまったようにも感じる。交流について、実施方法の見直しや整理を進めていく必要性を感じた。
- ・進路指導では、今年度、キャリアパスポートの改善を図った。職場実習での学びを学校教育活動とリンクしたものとし、学びを継続的に発展させていくことができるようになってきている。また、保護者との情報共有にもつながっている。

[連携] ○関係諸機関とのつながりを大切にしたい切れ目のない支援と指導

○生徒の自立と輝きに向けた共生共育

- ・関係機関とのつながりの面では、生徒の出身中学校、行政、福祉、進路先などとの連携が密になったことが大きな成果だった。情報共有や課題解決のために、躊躇せず関係機関に声をかけケース会議を設けたことで、早期発見、早期対応、予防的対応ができるようになった。
- ・共生共育の面では、実施回数が増えたことによる成果と課題があった。量に対して質の確保が今後の課題であると感じる。生徒が主体的に伸び伸びと取り組めるように、回数や内容について精選していく必要がある。

[チーム] ○働きがいのある職場

- ・本校と分校との連携強化、働き方改革に向けた工夫を試みてきた。
- ・学校のデジタル化が進んでいる。教員の業務はもちろん、特に生徒の学習環境のデジタル化は著しい。教職員の多忙解消と同時に、学習の質の維持・向上を図っていきたい。
- ・PTA活動においても業務のデジタル化を図った。クラウドや学校連絡・情報共有サービスを活用し、実感できる負担軽減や業務の簡略化がなされた。

③「地域とともにある学校」をテーマに意見交換と評価

○学校運営に係わる意見

- ・福祉の視点から、学校と共に考えていきたい課題を感じている。障害者の人生の中で特別支援学校に在籍する時間はほんの一部である。卒業してからの時間の方がはるかに長い。真の自立に向けて、「障害」を理解し「生涯」的なビジョンをもてるよう、個に細やかな支援を整えていきたい。
- ・保護者向けの進路情報について、面談などの機会に学校から得たり PTA 学習会等で学べる機会があったりする。学年が上がると進路決定に向けて家庭でも意識が高まるが、下級生の意識は高まりにくい。1年生の時から事業所見学等の機会を増やしてみるのもよい。

○関係者評価記入

「令和5年度学校関係者評価実施報告書」を配布、後日回収

④次年度の研修会（令和6年7月30日開催予定）に向けた協議

「地域で輝く分校生徒を、地域と共に思い描く」（仮）

～生徒が安心して、活躍ができる場の確保に向けて～

【教 頭】ジャンルを越えた地域の方々との協働が進むよう、

- ・講演では、共生や多機関協働の有用性について、具体的事例をとおして知ってもらいたい。
- ・シンポジウムでは、伊豆田方分校生の良さや特性を発信すると同時に、生徒のニーズや困り感、有効な合理的配慮などについても知ってもらいたい。

【委 員】幅広く、様々な立場の人に集ってもらえるように、

- ・学校運営協議会委員は、各所属や関係機関に向けて情報を発信し、研修参加を呼び掛ける。
（対象は、市町、福祉、生徒、保護者、近隣の中学校特別支援級など）
- ・学校関係者（生徒・卒業生・教職員）や福祉事業所が参加しやすい環境（展示、販売等）を検討する。
- ・内容は、成功例の紹介に留まらず、関心が高い課題や実情についても扱う。

⑤諸連絡（次年度学校運営協議会の日程など）

第1回	5月15日（水）AM
第2回	7月 3日（水）AM
研修会	7月30日（火）PM
第3回	10月23日（水）AM
第4回	2月 4日（火）AM

学校番号	8	学校名	静岡県立沼津特別支援学校伊豆田方分校	校長名	青木 暁乃
------	---	-----	--------------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
安全	地域での安全につながる防災教育	<p>①生徒が、発災時の具体的な行動を理解している。</p> <p>②職員が、発災・緊急時にとるべき行動を把握している。</p>	<p>①アンケートにおいて「できた」と回答した 教員 94.7% 保護者 92% 生徒 99%</p> <p>②アンケートにおいて「できた」と回答した 教員 100%</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・田農との合同防災訓練やジュニア防災士養成講座の実施など、災害を自分事として捉え体験的に取り組める授業が充実していた。 ・避難訓練では、形式的な避難行動に留まらず、各教員が担当場所からの経路の安全性を見直し、一次避難地を新たに設定するなど改善が行えた。 ・家庭での備蓄や家具固定、居住地区における避難場所などのプリントを持ち帰り、保護者とも情報共有ができた。 ・防災学習は大切。これまでの教材を共有し、授業に活用しながら継続していきたい。
安全	誰もが安心して通える学校	<p>①職員や生徒が、互いの良さや苦手を認め、寄り添う姿勢や称賛の言葉を用いて関わっている。</p> <p>②校内の情報や物品がシンプルに機能的に整理されている。</p>	<p>①アンケートにおいて「できた」と回答した 教員 100% 保護者 96.6% 生徒 91%</p> <p>②アンケートにおいて「できた」と回答した 教員 73.7%</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭の尽力により、健康面での指導が充実した。引き続き、家庭や地域生活にも返し連携を図りたい。 ・スクールサポーターから定期的に情報を得ることで、安全指導も充実してきている。 ・多くの生徒が学校を楽しみにしているが、人間関係や生活リズムの面で悩みを抱える生徒もいる。本人や家庭に寄り添い、背景を十分に理解した上で、安心できる校内体制作りや地域における最適な居場所へのつながりを継続したい。 ・教室や廊下の掲示物などの情報整理、デジタルデータの管理が少しずつ進んできている。最適化できるよう、引き続き環境整備を行いたい。 ・PC室や相談室、作業棟などの使用を工夫して、空間の有効活用や構造化をより進められると良い。

<p>専門</p>	<p>多面的な生徒理解と生徒自身の自己理解への支援</p>	<p>①作業学習をはじめとする学習場面において、生徒が主体となって活躍している。</p>	<p>①アンケートにおいて「できた」と回答した 教員 89.5% 保護者 100% 生徒 99%</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTの活用により、生徒の多様な表現方法を拾い上げ、意見の吸い上げを行うことができた。更なる活用を進めたい。 生徒の情報について、学年を超えて日常的に情報交換を行うことで、学年を越えた理解や指導に繋がった。 研修を通して、生徒自身が課題を発見することやその解決に向けた主体的な学びについて、教師側の意識が高まった。 作業学習では、終日作業が始まり、一日を通して働く経験を積めるようになり、他団体との協働場面も広がった。今後、協働機会の飽和状態による準備不足が心配されるため、交流機会の精選について検討していきたい。
<p>専門</p>	<p>個に応じた適切な進路決定</p>	<p>①生徒が、勤労観や職業適性について理解を進めている。 ②保護者が、進路選択や職場実習の価値を重視し、協力している。</p>	<p>①アンケートにおいて「できた」と回答した 教員 100% 保護者 96.6% 生徒 89%</p> <p>②アンケートにおいて「できた」と回答した 教員 100% 保護者 96%</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> キャリアパスポートを作成し活用することで、生活や学習、実習などを繋げて考えることができ、生徒主体の学びに向かっている。更なる有効活用を進めていきたい。 金銭を含めた自己管理など、生活面での支援や指導も、情報提供を含めて更に充実させていきたい。 保護者への進路情報提供を充実させることで、本人を含めて家庭の協力を得ながら進路指導を進めることができた。 1年生の短期実習など、最適な実施時期を検討していきたい。また、保護者向けの進路説明会の設定など、家庭と連携するための工夫を引き続き進めていきたい。

<p>連携</p>	<p>関係諸機関とのつながりを大切にした切れ目のない支援と指導</p>	<p>①職員が、生徒や保護者のニーズを把握し、必要に応じて面談や関係者会議を実施している。</p> <p>②保護者が、生活安定や地域安全の価値を重視し、支援している。</p>	<p>①アンケートにおいて「できた」と回答した 教員 100% 保護者 100%</p> <p>②アンケートにおいて「できた」と回答した 教員 100% 保護者 92%</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出身中学校や保護者、地区行政等との綿密な情報共有を行うことができた。 ・必要に応じて保護者や市町の福祉課とも連携をとり、適宜、関係者会議を実施することができた。 ・中学校からの進路相談や卒業後の就業促進会議など、必要な時期に十分な情報共有ができた。 ・生徒指導案件などは、時期的なものなどから予測して、予防的な指導も進めることができた。
<p>連携</p>	<p>生徒の自立と輝きに向けた共生・共育</p>	<p>①生徒が、田方農業高校との共同学習や行事をはじめ、外部人材との交流学习に積極的に参加している。</p> <p>②学校運営協議会から具体的な支援を得ている。</p>	<p>①アンケートにおいて「できた」と回答した 教員 100% 保護者 93.3% 生徒 91%</p> <p>②アンケートにおいて「できた」と回答した 教員 100%</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陶芸や調理などの技術指導に加え、防災指導や主権者教育など、幅広く外部人材から知識を得る機会があった。 ・エスウェルフエスやトマト祭など地域の行事や祭などに参加し、作業製品の販売などで地域貢献することができた。 ・同年代をはじめ、いろいろな立場の方々とのコミュニケーション機会が充実していた。 ・交流の回数が増え、量に対する質の確保が難しくなってきたため、それぞれの交流の意義を確認し、精選していきたい。 ・学校運営協議会から、学校見学の時にその場で直接アドバイスをいただき、すぐに指導に活かすことができた。 ・学校運営協議会との連携により、外部団体との有意義な協働場面が増えた。

<p>チーム</p>	<p>働きがいのある職場</p>	<p>①職員が、本校事務室からの連絡を適時に確認し、連携している。</p> <p>②職員が、時数管理や行事計画の工夫などにより、生徒と向き合う時間や教材研究の時間、情報共有の時間を確保している。</p>	<p>①アンケートにおいて「できた」と回答した 教員 94.8%</p> <p>②アンケートにおいて「できた」と回答した 教員 100%</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校事務室から、掲示板などを通して書類の書き方や期限などの丁寧な通知があり、前もって計画的に事務手続きの準備を進めることができた。 ・掲示板やCOCO0の活用が進み、印刷や配布、アンケートの回収、集計などの業務改善がますます進んでいる。 ・サーバーの階層やフォルダが整理され、データ活用が進んだ。写真データの引越などもあったが、情報課がスムーズに進め、業務の滞りがなかった。 ・PTA活動にデジタル機器を取り入れることで、仕事の手間が減り、データ作成などの分担もしやすくなった。 ・一部の保護者の中にはPTA活動を負担に感じている方もいる。家庭環境や時代の変化等に合わせて、活動の更なる精選を検討したい。 ・学年内や作業班内での調整が進み、教材研究や生徒の情報共有に充てる時間が以前よりもてるようになった。 ・放課後の会議や部活動指導など、運営の改善に向けて引き続き案を練っていきたい。
------------	------------------	---	--	---

令和5年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	8	学校名	沼津特別支援学校伊豆田方分校	記載者	長谷川 裕己
------	---	-----	----------------	-----	--------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
安全	地域での安全につながる防災教育	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が、発災時の具体的な行動を理解している。 職員が、発災・緊急時にとるべき行動を把握している。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 災害の多い年であったこともあり、防災について再確認することができた。
安全	誰もが安心して通える学校	<ul style="list-style-type: none"> 職員や生徒が、互いの良さや苦手を認め、寄り添う姿勢や称賛の言葉を用いて関わっている。 校内の情報や物品がシンプルに機能的に整理されている。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 少ない収納スペースであるが、整理整頓を心掛け、上手に活用している。 デジタル機器の管理・活用が充実している。
専門	多面的な生徒理解と生徒自身の自己理解への支援	<ul style="list-style-type: none"> 作業学習をはじめとする学習場面において、生徒が主体となって活躍している。 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 交流の回数や内容は充実している。より良い交流に向け、精選は必要であると感じる。
専門	個に応じた適切な進路決定	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が、勤労観や職業適性について理解を進めている。 保護者が、進路選択や職場実習の価値を重視し、協力している。 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、職場実習を機に、進路決定に向けた指導の充実を期待している。
連携	関係諸機関とのつながりを大切にしたい切れ目のない支援と指導	<ul style="list-style-type: none"> 職員が、生徒や保護者のニーズを把握し、必要に応じて面談や関係者会議を実施している。 保護者が、生活安定や地域安全の価値を重視し、支援している。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関との連携が密にとれた。中学校には、分校以外の進路情報についても情報提供をしていくと良い。
連携	生徒の自立と輝きに向けた共生・共育	<ul style="list-style-type: none"> 田方農業高校との共同学習や行事をはじめ、外部人材との交流学习に積極的に参加している。 学校運営協議会から具体的な支援を得ている。 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒にとって魅力的な、分校ならではの交流が充実していた。
チーム	働きがいのある職場	<ul style="list-style-type: none"> 職員が、本校事務室からの連絡を適時に確認し、連携している。 職員が、時数管理や行事計画の工夫などにより、生徒と向き合う時間や教材研究の時間、情報共有の時間を確保している。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> デジタル化が進み、業務の効率化が急速に図られた。